

## 新しいエリアマネジメント (地域管理)の導入に向けて

外資系企業などによる投資・開発が活発な倶知安町山田地区の「ひらふ地域」で、今後の地域づくりに向けた取り組みが始まりました。この取り組みは、本年度から始まる『道道二セコ高原比羅夫線（通称ひらふ坂）』の道路改良工事に伴い（表1）、ロードヒーティング完成以降発生する電気代について、歩道の一部にかかる費用を地域負担する必要があることが発端となっています。

同地域は近年、外資系企業などによる投資・開発が進んだ結果、町内会に加入していた日本人住民が減り、外国人の定住者や季節的な滞在者が増加。これまで町内会が管理してきた防犯灯の維持・管理に支障が出るなど、地域コミュニティ機能の低下が課題でした。



そういった動きの中で、6月27日、ホテルニセコアルペンで『ニセコひらふBIDワークショップ』が開かれました。ワークショップにあたって、法政大学の保井美樹准教授をお招きし、ひらふ坂へのBID導入に関するテーマで講演をしていただきました。

講演では、BIDとはどんなものか、その背景と日本で実施する場合の課題などを説明しました。

また、講演後のワークショップでは、①ひらふにBIDは必要か。必要であるなら何をすべきか。

②公平な負担とは。誰が負担すべきで、その割合はどうするか。

というテーマで参加者同士でグループ討論してもらい、まとめとしてグループ毎に意見を発表してもらいました。BIDには全面的に賛成であるとした評価が多かった一方で、

・町がひらふに必要なサービスを提供できない、という前提でのBIDの登場に思える

・BIDが自治体サービスを低下させる理由付けとなつてはならない

など、導入に参加という立場ながらも、

問題点を懸念する声もありました。BIDの概念の導入は、日本では法整備されておらず、課題も多く残っています。BIDやそれに近い制度の導入の是非も含め、今後もひらふ地区を中心とした町民の意見を広く聴く必要があります。

### ひらふ坂整備に向けての経過

平成19年『道道二セコ高原比羅夫線「ひらふ坂」整備要望協議会』（以下、協議会）設立。

平成19年11月：協議会の会合を経て、倶知安町を通じ、道に対し**歩道1.5m幅**のロードヒーティングと**電線地中化**を要望。

平成21年5月：町役場が、北海道電力と電気供給の契約窓口となることが道庁から求められる。

#### 【理由】

・地元の費用負担者となる沿線及び近隣の所有者が頻繁に変わっているので、費用負担しない者が出るのが想定される。

・北海道電力が倶知安町による電気量の支払い契約を要望

平成22年6月～8月：道との意見交換の後、当初の要望に加え、**歩道全体（3.5m幅）**と**車道全体**のロードヒーティングも要望。

平成22年9月：道庁から、「良い景観をつくる道路整備を行うためには地域の取組み・体制が必要」という回答があり、費用負担区分について**道庁負担が増えた**回答が提出される（表2）。

表1 ひらふ坂の道路改良整備概  
(北海道事業分のみ)

整備延長	約834 m
総事業費	約9億8000万円
整備内容	電線類地中化工事、車道・歩道のロードヒーティングほか
計画年	概ね3ヶ年を予定

※町事業分として、防犯灯設置、上下水道移設工事ほか

表2 予定されている負担区分

整備項目	費用区分	道庁負担	受益者 (地元)負担
車道全面 (全線)RH	工事費/ 維持管理費	○	
歩道2.0m (車道側)RH	工事費/ 維持管理費	○	
歩道1.5m (民地側)RH	工事費	○	
	維持管理費		○

RH：ロードヒーティング

※ニセコひらふ地域づくりに関する情報は、随時町ホームページや広報を通してお知らせします。